

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4076200205
法人名	社会福祉法人 正松会
事業所名	グループホーム 椿の里
所在地 (電話番号)	福岡県飯塚市椿623番地20 (電話) 0948-28-3839

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年3月21日	評価確定日	平成20年4月18日

【情報提供票より】(平成20年3月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人		
職員数	9 人	常勤	6人, 非常勤	2人, 常勤換算	5.33人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)6,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,000円				

(4) 利用者の概要(3月5日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.3歳	最低	67歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	廣畑クリニック / 田中医院 / アイ歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム椿の里は、同法人の特別養護老人ホームつばき苑と広い庭をはさんで同一敷地内に立地している。グループホームは木造平屋造りで周辺には畑があり、野菜や花が植えられ、のどかで豊かな自然環境の中にある。その他にデイサービスやケアプランサービスなど高齢者ケアの事業を展開しており、多様なサービスが提供できる機能を備えている。今年度は、地域密着型サービスとして独自の理念をつくりあげ、「椿の里だより」で積極的にアピールするなど地域密着型を目指し意欲的に取り組んでいるところである。ホームは建物内が明るく、廊下や共用部分が広いので、重度化した入居者が多くなってきても対応が可能となっている。各居室にはトイレが設置され、プライバシーに配慮した空間づくりの工夫がある。運営者・管理者・職員は「温かい思いやりで充実した日々を」モットーに入居者を尊重したケアを実践し家族に高く評価され、夏祭り・獅子舞などの行事実施は特に喜ばれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	グループホームとして、地域密着型サービスの役割を果たすために地域との連携が課題となっていた。その課題解決に向けて職員全員で話し合い「住み慣れた所で、その人らしく穏やかに暮らせるように支援します」という理念をつくりあげた。今後は、理念を基本に認知症介護のノウハウを地域に情報発信していく取り組みなど期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義を理解し、職員全員で自己評価を行い、改善点や気づきなど前向きにとらえ、早い改善を目指した取り組みを行っている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催し、行政職員・民生委員・入居者・家族代表で事業内容などの報告を行い意見交換を行っている。運営推進会議の内容及び家族会のあり方・運営推進委員に地域の関係者の参加依頼など今後の検討が望まれる。今後は、運営推進会議での活発な意見交換や運営推進会議の内容の職員の周知など具体的に取り組んでいきたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族がよく面会に来られるので、面会時には意見や要望などを聞くように努めている。家族と職員は気軽に話ができる関係を築いているため、家族が入居者のケアについての理解が深まり、正月・盆には、ほとんどの入居者が外泊や外出し家族と過ごされるようになるなど、入居者と家族の良好な関係づくりができています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	グループホームが立地する周辺環境は、地域の住宅街から離れていること・入居者が重度化してきたことなどで、気軽に地域へ出かけられなくなってきており、地域との連携が困難になってきている。そこで、入居者ができる範囲での文化祭への出展や見学を行っている。ホーム行事である夏祭り・獅子舞・盆踊りなど、近隣の方に来ていただき、ホームの状況を理解していただいている。また、併設のデイサービスの利用者との交流を図っている。地域密着型サービスの役割を果たすためにグループホームとして、認知症の介護について、地域の理解を育む活動など今後に期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し職員全員で理念を話し合い「住み慣れた所でその人らしく穏やかに暮らせるように支援します」「明るく、家庭的な温かみのあるグループホーム」という独自の理念をつくりあげている。理念は職員の成長や入居者の状況によって柔軟に考えていく方針である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化を図り、理念の実践に向けて「その人らしさ」を大切に、自分たちが受けたいケアやサービスを話し合い、日々の介護に活かすべく取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の理事長が管理者を兼務しているため、法人として自治会・老人会の付き合いをしている。利用者の重度化に伴い、地域の行事に参加することが年々困難になってきており、文化祭への出展・見学などを行っている。ホーム行事である夏祭り・獅子舞・盆踊りなど、近隣の方に来ていただき、ホームの状況を理解していただいている。敷地内のデイサービスの利用者との交流は図っている。今後は認知症介護のノウハウなど情報発信に期待したい。		地域の環境(家が少ない、人通りが少ない)により、中々、地域との交流が難しい状況にあるが、小学校の運動会の見学など、できる範囲で入居者の楽しみにつながる活動を少しずつ積み上げていかれることが望まれる。認知症ケアについてのノウハウなど、なんとか地域との接点を見出し理解していただける機会を持つなど今後に期待したい。
c					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解し、職員全員で自己評価を行い、改善点や気づきなど前向きにとらえ、早い改善を目指した取り組みを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催しし、事業内容などの報告を行い意見交換を行っている。運営推進会議の内容及び家族会のあり方・運営推進委員に地域の関係者の参加依頼など今後の検討が望まれる。今後は、運営推進会議の内容に関して見直し活かしていきたいと考えている。		運営推進会議を地域との連携を図る機会ととらえ、民生委員を通じての地域住民の多様な参加など、運営推進委員へ協力を仰ぎ、地域との連携を高めるための柔軟な地域住民の参加など参加枠を広げるなど工夫が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	飯塚市が派遣する介護相談員の受け入れを毎月行っている。年に1回介護相談員と施設側との意見交換会を市役所で行っている。飯塚市の担当者と日常的に抱える問題点などを情報交換し、地域全体のサービスの向上を図る取り組みに期待したい。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	グループホーム協議会に加入しており、研修会や勉強会で学んでいる。また、それらの研修会や勉強会での報告を全職員が周知できるようにしている。権利擁護の制度が必要とされる入居者には活用できるように支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に健康状態など入居者の状況報告を行い、急ぎの場合には、電話連絡により報告を行っている。報告に関しては、家族が入居者の状況を理解していただけるように行っている。また、毎月「椿の里だより」を発行し、主な行事報告や行事案内を報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的には、家族は面会時など気軽に職員へ意向や要望・苦情などを言っていただけるように働きかけを行っている。年1回の懇親会では家族だけで話していただく機会を持ち、家族に何でも言っていただけるように努め、運営面に活かしていくように取り組んでいる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と入居者のなじみ関係を大切に考えており、職員の退職も少なく、法人内の異動もない。しかしながら、今後の対応策として、入居者のダメージを防ぐためにも、異動や離職によるサポートをどのように行っていくのかをホームとして考えておく必要がある。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の募集には年齢制限などは記していない。また、定年後も本人が希望すれば雇用している。資格取得を希望する職員については内部・外部研修に参加できるように支援し、職員の働きがいや自己実現などに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	新人研修や代表者会議・職員全体会議などで機会あるごとに人権教育・啓発活動に取り組んでいる。家族からは入居者を尊重したケアが運営者・管理者・職員の共通の理解のもとで行われ、高い安心感があるとの意見があった。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	認知症介護実践研修や管理者研修・グループホーム協議会の研修会・勉強会など年間研修計画を作成し、全職員が研修に参加できるように支援している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会に加入し、地域のグループホームの多くが参加するブロック勉強会や全体研修に積極的に参加し交流を図っている。また、グループホーム協議会のブロック代表として、ホームのケアの実践を発表するなど、サービスの質の向上に努めている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居者・家族と面談を行い、入居者の意向を大切に、入居者・家族が不安なく納得して入居できる日まで待っている。また、入居前にはお茶飲みに来ていただいたり、ホームや職員とのなじみの関係を築く支援を行っている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	職員と入居者が過ごす時間を大切にお茶の時間や洗濯たたみ・花札などのゲーム遊び・入浴など、入居者が思いや意向を語る時に、そっと寄りそい入居者の話をよく聞き、入居者の理解に努め、共に笑い合うなど共に暮らす喜びが持てるように努めている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居者の思いが汲み取れるように、話をゆっくり聞いたり、表情を観察している。意思疎通の困難な方は家族から情報を得るなど、入居者の思いや意向を把握するために普段何気ない会話などにも気をつけている。また、職員全員で入居者の行動や状態を共有できるように取り組んでいる。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	職員は入居者や家族の希望・思いを汲み取り、介護計画に反映させると共に、日頃の関わり中で、入居者が自分らしく暮らせるように職員全員で介護計画を作成している。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月ごとに介護計画を見直している。また、状態変化などの際にも見直しを行っている。なお、状態変化の際には、アセスメントを十分に取り、原因の把握に努めていくことが求められる。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	同敷地内に同法人運営のデイサービスやケアプランサービスが事業展開を行っており、多様な専門職が従事しているため、専門職のアドバイスやノウハウを活かすことができ、グループホーム単独ではできないマンパワーのバックアップがある。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者・家族と相談し、かかりつけ医を決め、受診や通院は家族や入居者の希望に応じて対応している。また、同敷地内の特養に看護師がおり、日常的に相談でき入居者の健康管理をサポートできる体制がある。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化が進んでおり、職員は研修会に参加し情報収集やケア会議で話し合っている。法人のスケールメリットを活かし、入居者や家族の意向を尊重し、医療機関など関係者と話し合い、特養とホームでの看取りの可能性を検討することが求められる。		入居者・家族の意向を把握し、法人の機能を活かし、法人として対応できるターミナルケアについて医療を含めた関係者と話し合い「看取りの方針」「同意書」などの書類の整備を含め、今後検討していくことが期待される。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	研修会に参加し、記録の書き方に心がけている。また、入居者の耳もとでゆっくり話すなど、入居者の気持ちにそった声かけを行うように取り組み、プライバシーを尊重した支援を大切にしている。記録などの個人情報は管理・保管を行っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	体調や認知レベルに合わせて、その日その日のできそうなことを行っていただき、決して強制などを行わないように、入居者のペースや気持ちを尊重した対応を行っている。朝早起きの方・朝寝坊される方、昼寝を好まれる方など職員はその人のペースを大切に様子を観察しながら支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事は台拭き・茶碗拭き・野菜の下ごしらえなど入居者のできることを行っていただいている。食事は入居者の好みを把握し献立を立てている。入居者のペースに合わせて、職員と入居者が会話を楽しみながら食事をしている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴の希望を把握し、体調を考慮し入浴回数をおおよそ決めている。毎日入浴を希望される方はその都度確認しながら入浴を支援している。一番風呂の好きな方など入浴の入り方も希望に応じている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の気持ちを尊重し、体調や症状に合わせて、その日その日のできそうな事をしてもらっている。入居者が楽しく役割を持って暮らしていただくためにパズル・計算ドリル・縫い物・洗濯物たたみ・食事の準備などの手伝いを行っていただいている。気晴らしとして天気の良い日はできるだけ散歩を楽しんでいただくように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	外出は車椅子の利用が多くなっているが、天気の良い日は職員から促して散歩などに出かけている。季節を感じていただくために菜の花・桜・チューリップなど見にドライブに出かけることが多い。また、個別に美術館・喫茶店などに出かけている。外出には家族の協力・参加を呼びかけるなど家族のサポート体制がある。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	以前は、外出される入居者がおり、職員がついて外出をしていた。現在は重度化が進み、無断で出かける方はいない。夜間のみ施錠しているが、昼間は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	火災発生マニュアルにそって、年2回避難訓練を行っている。職員の連絡網も作成している。災害は夜間時の発生が考えられ、近隣住民や地域との協力が求められている。運営推進会議などの機会を通して地域との協力関係を築くことが求められる。		運営推進会議や地域の会合などで、避難訓練の協力など地域の協力の理解を求め、少しずつ、協力の輪を広げていくことが必要である。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	職員は、食事量・水分量を毎日個人記録に記入し情報の共有化を図っている。水分の摂取量が少なくならないように気をつけている。体重増加傾向の入居者への対応として、主食を少し少な目にするなど量を調整し個別に体重管理を行い、食事献立は法人内の特養の栄養士に相談するなど栄養バランスの取れた食事提供に取り組んでいる。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	光・室温・テレビの音量などには、いつも気をつけている。共用部分は広く4台のソファがあり、掘りごたつのある和室もあり、入居者は思い思いに好みの場所で過ごせるようになっている。季節の花が至るところに生けられ、家庭的で温かい雰囲気にも包まれている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	ベットのみホーム側で準備し、その他は使い慣れた品物を持参してもらっている。仏壇・マッサージ機を持って来られ、思い思いに自分の住まいとして工夫をされている。各居室にトイレがあり、プライバシーに配慮された空間となっている。定期的に写真の張替えをする家族もあり、自分の暮らしを楽しく彩り、家庭的な環境を提供している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			